校長室だより～燦燦～ №７９９

教員年齢別男女構成比

2023.7.22

「教員年齢別男女構成比」という資料が毎年出される。福島県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の年齢別男女別教員数がわかる資料である。わかってはいるが、この資料を見ると、暗然たる気分になってくる。４０代後半から下の年代の教員が少なすぎる。

今年度、野田中学校には、４０代前半の男性教員と３０代後半の女性教員が来てくれた。願ってもない人材である。その男性教員の年齢の欄を見てみる。男性１７名、女性１７名、計３４名しかいない。いかに貴重な人材であるかがわかる。女性教員の年齢の欄も見てみる。男性３０名、女性１４名、計４４名しかいない。

自分の年齢を見てみる。男性１３０名、女性６０名、計１９０名である。１／１９０名と、１／３４名とでは、１名の重みが違うように思えてくる。

小学校を見てみる。中学校と同じような傾向だが、違いもある。男女比である。中学校は、男性が５６％、女性が４４％である。一方、小学校は、男性が３５％、女性が６５％である。小学校の３８歳の欄を見てみる。男性が１８名、女性が３３名、計５１名しかいない。男性が１７名や１８名となると、県内のどこにいるのかという話になる。希少価値がある。

こうなることは、だいぶ前からわかっていた。だが、策を講じてはこなかった。先送りではないかもしれないが、策がなかったのも事実である。こういったことは、ごく少数のスタッフに数年間は任せて考えてもらった方がよい。１、２年でポストが替わっていくような組織では対応できない。

１０年後には、大量に教員が入れ替わる。今は、経験豊富な５０代の教員たちが、少ない若手を指導できる態勢である。これが、１０年もすると、少ない教員で、多くの若手を指導しなければならなくなる。今の３０代、４０代の先生方は、５０代の教員が多い影響で、本来、経験すべきポストを経験できない状況にある。ミドルリーダーとしての経験を積むことができない。

そういった人たちが、５０代になり、指導する立場になったときにどうなるのか。若手と一緒に、悩みながらも前に進めばいいのかもしれないが、経験値は重要である。数少ない３０代後半や４０代の先生方にポストを任せて、５０代はそれを見守りながら育てていくような態勢が必要である。

また、教頭先生を必要数、確保できるのかという問題もある。小学校で、約４００人、中学校で約２１０人の教頭先生が必要である。これは空席にはできない。果たして、なってくれる人が、どのくらいいるのか。

思えば、４０代、５０代の先生方がそろっている中で、３０歳で研修主任、３３歳で生徒指導主事をやらせていただいたのは、かなり幸運なことだったと思えてくる。あのときの校長先生がすごい。その期待に応えられたかどうかは、甚だ疑問ではあるが。

本校の４０代前半の男性教員と３０代後半の女性教員の成長を見守りながら、次年度は、どんなポストを任せようかと考えている。若手や中堅が経験を積みながら、成長していく姿を見ることができるのは、幸せなことである。